

学校 教育 目標	「生きる力にあふれる子」 ○主体的に問題に働きかけ、自分らしさを発揮しながら粘り強く解決していこうとする子を育てます。(知) ○互いのよさを認め合い、共に生きていこうとする子を育てます。(徳) ○自分や他者の生命を大切に、自ら進んで健康な生活をしようとする子を育てます。(体) ○地域に愛着をもち、自分から地域社会に関わろうとする子を育てます。(公) ○より広い視野で行動しようとする子を育てます。(関)				
	創立 52 周年 児童生徒数: 256 人	学校長 高浜 正太郎 主な関係校: 横浜市立橋中学校	副校長 高橋 暁	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 4

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> ふ…深めよう交流 じ…自分からあいさつ の…のばそう今の力 は…話し合って解決 な…何度でもチャレンジ	橋中学校 今井小学校 仏向小学校 初音が丘小学校 藤塚小学校	○自己肯定感を育て、豊かな心で表現し、人と学びあう子ども 「自分づくりに関する力」をブロック小中一貫教育のテーマとして設定し、学校生活において力を発揮できるようICTを効果的に活用し、意識して取り組む。 ・子どもの声を取り入れながら、教育活動を通して、自分らしさを発揮しようとする姿勢や、他者を理解しようとする態度を養う。

中期 取組 目標	○子どもたち一人ひとりの思いを大切にしながら、まちとともに歩む学校にします。 ・ICTも活用して一人ひとりの状況を把握し、基礎基本の定着を図り、子どもの「考える力」を育て、学力の向上を図ります。 ・様々な「人」「こと」とのかかわりの中で、自分の考えを伝え、互いに「認め合う力」を育て、自己有用感を感じることができる学校づくりを行います。 ・毎日の観察とデータも活用し、一人ひとりの状況や思いを大切にしながら、子どもたちが安心して過ごせる、安全な学校づくりを行います。 ・家庭・地域とともに、一人ひとりの思いを尊重しながら子どもたちを育て、人とのかかわり合いを通して、学びの充実を図ります。
-------------------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①データを活用して一人ひとりの状況を把握し、ICTも活用しながら実態に合った手立てを考えていく。②スキルタイムは、基礎基本の定着を目指し、ICTも活用しながら、子どもが自分に合った学びを選択しながら学習課題に取り組むことができるように工夫する。③重点研究テーマを「自分の思いや願いを探究し続ける子どもの姿をめざして」とし、めざす子どもの姿を明確にした授業づくりを行い、生活科、総合的な学習の時間を中心に表現力の向上を図っていく。
徳	人権教育	①縦割り活動(絆活動)や異学年交流の充実を図り、互いのよさを認め合い、自他ともに大切にできる態度を養う。②児童が安心して学校生活を送れるように、人権学習や日々のあいさつを通して、人とのつながりを深めるようにする。③各教科や道徳の時間、日々の活動において、対話やICTを活用しながら、自分の思いを安心して表現できる学校づくりを行う。
体	健康教育	①体力テストや生活意識調査のデータを活用し、児童の実態に合った健康教育計画を立てる。②児童会活動・学級活動の中で児童が運動の楽しさや良さを実感できるような取り組みを年間通して計画し、子ども達が意欲的に継続的に運動できる活動を行う。③委員会活動や学校保健委員会を中心に、健やかな心や体、食の大切さなどについて考える機会を設け、健康的な生活を送れるように支援する。
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①データも活用しながら児童の実態を的確にとらえ、小中ブロックと連携しながら、めざす子どもの姿を明確にした教育活動を行う。②「自分づくりパスポート」やICTを活用し、自らの学習状況や生活状況を振り返り、自身の成長や身に付けた資質能力が実感できるように働きかける。③学校内外での様々な活動を通して、一人ひとりが貢献できた有用感や目標に向かって取り組むことができた達成感を味わえるようにする。
	いじめへの対応	①年間計画に子ども会議などの話し合いの場を設け、児童自身が主体となって考えるいじめの未然防止活動を強化する。②いじめ防止対策委員会を月1回以上開催し、各案件の経過を丁寧に確認することで、未然防止および早期発見・迅速な対処に努める。③いじめに関するアンケートを年2回以上実施し、結果の共有を通じて児童の様子や心情を正確に把握する。あわせて教育相談もを行い、解決に向けて尽力する。
	人材育成・ 組織運営(働き方)	①校内外の研究・研修を通して、学級経営や教科指導など教職員としての様々な指導力の向上に努める。特に、メンターチームでの活動においては、教職員全体で支援し、個々の指導力や全体の組織力を高められるようにする。②互いに意見や考えなどを出し合い、よりよい働き方への策を見い出せるよう、日頃からのコミュニケーションを大切に、信頼関係を構築し、風通しのよい職場環境に努める。③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、組織的な働き方改革につなげる。
	児童指導	①YPAアセスメントや生活アンケートを効果的に実施し、多角的な児童理解に基づいた具体的な支援・指導の充実を図る。②藤塚スタンダードに基づいた指導を継続し、児童・保護者の安心感を醸成する。また、定期的な見直しを通して指導の質を組織的に向上させる。③職員会議において児童理解に係る議題を定例化し、全教職員による迅速な状況把握と共通理解を徹底する。④児童の心情に寄り添った学習支援を模索し、ICTを有効活用することで学びの継続を保障する。
	特別支援教育	①児童一人ひとりの思いに寄り添い、誰もが安心して活動できる支援体制と環境整備を推進する。また、ICTの効果的な活用法を共有し、個に応じた指導に活かす。②児童支援専任や特別支援コーディネーターを中心とした研修・情報交換を充実させ、組織全体の専門性を高める。③家庭、地域、関係諸機関と連携しながら児童支援を行う。
	地域連携	①学校運営協議会を軸に学校・保護者・地域が教育活動の目標を共有し、学校教育活動の推進に努める。②地域コーディネーターや各ボランティアの方々と連携協力することで、人と豊かにかかわり、より良く生きようとする児童の力を育む。